

文部科学省共同利用・共同研究拠点／大学共同利用機関 連携シンポジウム 「異分野融合によるヒトの社会性の理解を目指して」

2021年2月23日（土）、文部科学省共同利用・共同研究拠点到認定されている3拠点（玉川大学社会神経科学研究拠点、同志社大学赤ちゃん学研究拠点、昭和大学発達障害研究拠点）と大学共同利用機関である自然科学研究機構生理学研究所が拠点間の連携と協力体制を構築することを目的に、オンラインでシンポジウムが開催されました。今回のシンポジウムでは、すべての拠点で共通の研究テーマとなっている「社会性」を様々な研究分野から紐解き、今後の異分野融合研究の可能性を探ることを目的として開催しました。当初このシンポジウムは昨年度に開催を予定しておりましたが、急激な新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い急遽延期となり本年度の開催となりました。

当日は、シンポジウムの開催にあたり、本学の稲葉興己理事からの挨拶の後、文部科学省研究振興局学術機関課 課長塩原誠志氏より、来賓挨拶をいただきました。その後拠点長から各研究拠点の紹介が行われた後、各研究拠点から代表2名の研究者から、霊長類を対象とした生理学的研究、ヒトを対象とした認知神経科学的研究、赤ちゃんを対象とした発達研究、疾患を対象とした臨床研究、ソーシャルロボットを活用した認知ロボティクス研究、社会心理学的アプローチを活用した社会神経科学研究といった、多面的かつ多階層アプローチで社会性を捉えた研究が紹介されました。日本全国から150名以上の方に参加いただいたことから、本シンポジウムのテーマに多数の方が興味を持っておられるのではないかと思います。

今後、この4機関がヒトの発達、社会性に関する学術分野ならびに関連分野の振興と有為な人材の育成を目標に、連携して活動していくことが計画されています。

（脳科学研究所 松田哲也）

プログラム

開会の挨拶 玉川大学理事 稲葉興己

来賓挨拶 文部科学省研究振興局学術機関課 課長
塩原誠志氏

研究拠点紹介

- ・自然科学研究機構生理学研究所（生理学研究所所長 鍋倉淳一）
- ・昭和大学発達障害研究拠点（昭和大学発達障害医療研究所所長 加藤進昌）
- ・同志社大学赤ちゃん学研究拠点（同志社大学赤ちゃん学研究センターセンター長 板倉昭二）
- ・玉川大学社会神経科学研究拠点（玉川大学脳科学研究所所長 小松英彦）

セッション1（座長 鍋倉淳一）

「霊長類動物をモデルとして社会性の神経機構を探る」

磯田昌岐（自然科学研究機構生理学研究所認知行動発達機構研究部門 教授）

「対面コミュニケーションにより生じる相互作用の神経基盤：2個体同時計測fMRI研究」

定藤規弘（自然科学研究機構生理学研究所心理生理学研究部門 教授）



セッション2（座長 加藤進昌）

「発達障害の脳研究からヒトの社会性を考える」

中村元昭（昭和大学発達障害医療研究所 准教授／副所長）

「発達障害専門外来とデイケアにおける取り組み」

太田晴久（昭和大学発達障害医療研究所 准教授）

セッション3（座長 板倉昭二）

「選択的聴取の発達」

加藤正晴（同志社大学赤ちゃん学研究センター 准教授）

「社会的優位性の初期発達～赤ちゃんは人間関係をどう見ているのか？～」

孟 憲巍（同志社大学赤ちゃん学研究センター 助教）

セッション4（座長 小松英彦）

「ソーシャルロボットの近接空間学」

岡田浩之（玉川大学学術研究所AIBot研究センター センター主任／工学部 教授）

「向社会行動の個人差とその神経基盤」

高岸治人（玉川大学脳科学研究所 准教授）

閉会の挨拶 小松英彦（玉川大学脳科学研究所所長）

